

文部科学省「学校・家庭・地域連携協力推進事業費」補助事業

社会総がかりで取り組む教育の推進XI

～令和3年度 学校・家庭・地域連携推進事業 実践事例集～



愛媛県教育委員会

はじめに

現在、学校においては、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた新学習指導要領の着実な実施や学校における働き方改革の推進、GIGAスクール構想の推進が求められているほか、不登校やいじめ、児童虐待への対応など、学校経営の困難さは年々増しております。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染症対策の徹底と子どもたちの健やかな学びの保障の両立など、学校では様々な取組が進められている中で、これまで以上に学校と家庭、地域とが連携していくことが重要となっています。

県におきましては、愛媛県教育基本方針・重点施策の第一に「社会総がかりで取り組む教育の推進」を掲げ、その中核的な事業として、学校・家庭・地域連携推進事業を推進し、各市町事業の補助に加え、研修事業や普及啓発等に取り組んでおりますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどの研修会が、オンラインやオンデマンド配信による開催となりました。しかしながら、遠方から移動しなくても参加できることや配信期間であればいつでも視聴できるという利点から、積極的に多くの方に参加いただき、関係者の意識及び資質向上を図ることができました。そして、今年度も各市町教育委員会及び事業関係者の皆様の御努力のもと、学校と地域、家庭、行政等が連携・協働し、子どもたちの学びを保障するための取組や、安全・安心な居場所づくり、保護者への相談体制の確保等、各地域で子どもたちの成長を支えていただき、心から感謝を申し上げます。

本事例集は、各市町教育委員会及び事業関係者の皆様の協力によって、県内各地での地域学校協働活動等の実践を取りまとめたものです。事業関係者をはじめ関係各位に御高覧いただき、「地域とともにある学校づくり」の一層の推進、そして、「学校を核とした地域づくり」に対する地域住民の主体的な意識高揚を図る取組にお役立ていただけますと幸いです。

結びに、本冊子の作成に当たり、格別の御指導・御協力をいただきました愛媛県地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会の委員の皆様をはじめ、各市町教育委員会、関係機関の皆様方に心よりお礼申し上げます。

令和4年3月

愛媛県教育委員会事務局社会教育課長

水田 寿雄

も く じ

はじめに

I 事業概要及び県事業

1 事業の全体像	4
2 地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会	7
3 活動別研修事業	8
4 普及啓発事業	21
5 教育サポート企業活用促進事業	24

II 市町事業

【地域学校協働活動】

① 四国中央市	30
② 新居浜市	31
③ 西条市	32
④ 東温市	33
⑤ 久万高原町	34
⑥ 大洲市	35
⑦ 内子町	36
⑧ 伊方町	37
⑨ 宇和島市	38
⑩ 鬼北町	39

【えひめ未来塾】

① 四国中央市	42
② 西条市	43
③ 西予市	44
④ 内子町	45
⑤ 宇和島市	46

【放課後子ども教室】

① 四国中央市	48
② 新居浜市	49
③ 西条市	50
④ 今治市	51
⑤ 東温市	52
⑥ 久万高原町	53
⑦ 大洲市	54
⑧ 内子町	55
⑨ 西予市	56
⑩ 宇和島市	57
⑪ 鬼北町	58
⑫ 愛南町	59

【土曜教育活動】

① 新居浜市	62
② 西条市	63
③ 上島町	64
④ 東温市	65
⑤ 西予市	66
⑥ 愛南町	67

【家庭教育支援】

① 四国中央市	69
② 西条市	70
③ 今治市	71
④ 上島町	72
⑤ 伊予市	73
⑥ 砥部町	74
⑦ 久万高原町	75
⑧ 大洲市	76
⑨ 西予市	77
⑩ 宇和島市	78
⑪ 愛南町	79

(参考) 放課後児童クラブ一覧	80
えひめ学校・地域教育サポーター一覧	89
えひめ家庭教育サポート企業一覧	90

Ⅰ 事業概要及び県事業

1 趣旨

地域の教育力の低下や、学校が抱える課題に複雑化・困難化といった社会的課題の解決を目指し、全ての子どもを健全に育成するためには、学校・家庭・地域が連携・協働して教育に取り組む体制づくりを一層強化する必要がある。

そこで、各地域と学校が、子どもの健全育成について目標やビジョンを共有することによって、地域住民等の参画による「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」の効果的な取組を総合的に実施するとともに、県においても、保護者・教職員・地域住民及び企業関係者等が連携・協働して子どもたちを支える教育環境を整備するため、研修や普及啓発活動等に取り組む。

2 事業の概要

(1) 県事業

ア 「地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会」の設置

- 主な役割

事業の在り方・成果等の検証・評価、地域と学校の連携・協働体制構築の検討 等

- 人数:10名(学識経験者、福祉関係者、学校教育関係者、社会教育関係者等)

- 開催回数:2回

イ 活動別研修事業

- 目的:各事業それぞれの関係者の資質向上、情報交換等を図る。

- 開催研修会

- ・ 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な取組推進研修会
- ・ 放課後子ども教室・えひめ未来塾指導者研修会
- ・ 新・放課後子ども総合プラン指導者研修会
- ・ 家庭教育支援研修会

- 内容:講義、事例研究、実技講習、インタビューダイアログ 等

ウ 普及啓発事業

(ア) 「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」(兼 合同研修)

- 目的

県内の本事業関係者及び学校関係者、PTA、社会教育関係者、子育て・福祉関係者、企業、警察関係者等が一堂に会し、学校・家庭・地域の連携推進に係る成果と課題を検討する。

- 開催回数:1回(松山市)

- 内容:講演、分科会 等

(イ) 事例集の作成・配布

- 実施市町の優れた取組事例の紹介

- 市町教育委員会、事業関係者等に配布、データ提供及びホームページで公開

エ 教育サポート企業活用促進事業

- 目的:企業等の活用促進による教育活動の充実と教員の負担軽減

- 開催研修会

- ・ 教育サポート企業フェスタ（土曜日・放課後等の豊かな教育活動推進研修会）
 - 内容：事例紹介、模擬授業 等
- (2) **市町補助事業**
- 各市町に、運営委員会を設置し、地域学校協働活動推進員やコーディネーター等の配置、活動内容・運営方法の検討、支援活動の実施を行う。
- ア 活動内容・運営方法の検討**
- 各地域の実情に応じた取組内容や事業の運営方法の検討等を行う。
- イ 人材の配置**
- 統括的な地域学校協働活動推進員及び統括コーディネーター等
各地域学校協働活動推進員等間の連絡調整や、助言・指導、人材発掘・確保等の統括的な役割を担う。
 - 地域学校協働活動推進員及び地域コーディネーター
地域学校協働活動の連携についての各種調整のほか、学校や学校関係者、地域の団体等との連絡調整、地域の協力者の確保・登録・配置、地域の実情に応じた定期的・継続的かつ多様な活動プログラムの企画等を行う。
 - 学習支援員
特別な知識、経験等を活用し、協働活動支援員では行うことのできない小・中・高校生等への学習支援を実施する。
 - 協働活動支援員
学校の教育活動の支援や放課後、土曜日等における学習支援・体験・交流活動等のプログラムを中心に実施する。
 - 家庭教育支援員
家庭教育に関する学習プログラム等の中心的な企画・実施や保護者への相談対応等を行う。
 - 協働活動サポーター
土曜日等を含むプログラム実施のサポートや子どもたちの安全を管理する。
 - 特別支援・共生社会サポーター
特別な支援を必要とする子どもたちに対する放課後等の学習支援・体験活動を行う。
- ウ 支援活動の実施**
- (ア) **地域学校協働活動**
地域住民が学校と連携・協働し、教育活動を支援するとともに、地域住民の自己実現を図り、地域を活性化する活動
- 主な活動内容
郷土学習、学びによるまちづくり、体験・ボランティア活動支援、部活動指導、学校環境整備、登下校の見守り、補導時の対応など
- (イ) **えひめ未来塾**
地域の参画を得て、子どもが主体的に学習に取り組むことのできる場を設け学習を支援する活動
- 主な活動内容
放課後等の学習機会の提供と支援、学習習慣の育成、学習支援や悩み等への対応、学力強化シートの活用、教員OBの活用など
- (ウ) **放課後子ども教室**
全ての子どもを対象に、安全安心な子どもの居場所を設け、学習や体験活動等を提供する活動

○ 主な活動内容

学習支援や文化、スポーツ自然体験活動支援、異年齢集団や地域の方との交流活動、児童クラブと一体・連携した取組など

※ 放課後児童クラブと連携して「新・放課後子ども総合プラン」として実施

(エ) 土曜教育活動

土曜ならではの、企業・NPO 等の人材を活用した特色・魅力のある教育プログラムを提供する活動

○ 主な活動内容

プロや専門家の教育支援や継続的なプログラムの提供等

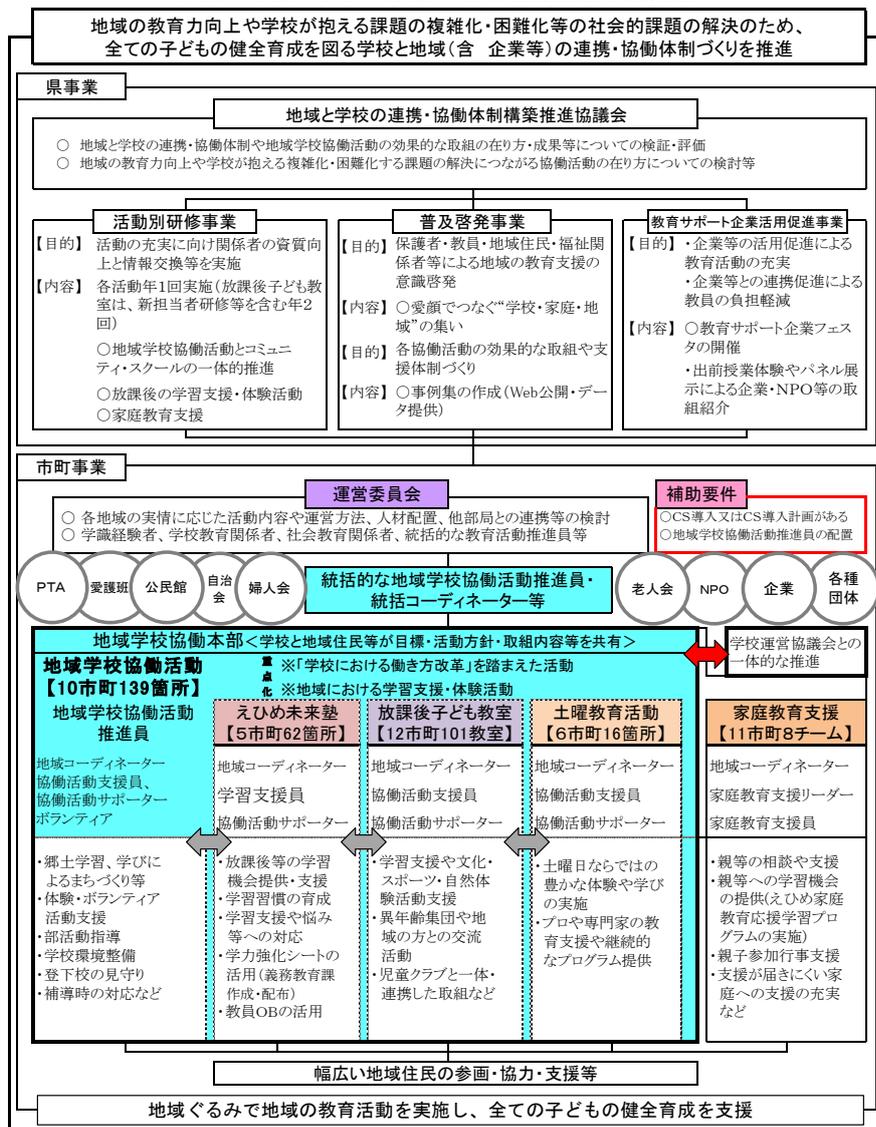
(オ) 家庭教育支援

親等への学習機会や情報の提供、相談体制の構築等、家庭教育支援の基盤を整備する活動

○ 主な活動内容

親等の相談や支援、親等への学習機会の提供(えひめ家庭教育応援学習プログラムの実施)、親子参加行事支援、支援が届きにくい家庭への支援の充実など

令和3年度 学校・家庭・地域連携推進事業構造



2	地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会
---	----------------------

1 概要

(1) 目的

学校・家庭・地域連携推進事業を、円滑かつ効果的に実施するとともに、地域の教育支援に関する施策の在り方や成果等について検証・評価等を行う。

(2) 委員構成

学識経験者、PTA団体関係者、教員等団体関係者、児童福祉関係者 等

(3) 業務

○ 地域学校協働活動及びえひめ未来塾、土曜教育活動、家庭教育支援の在り方・成果についての検証・評価

○ 「新・放課後子ども総合プラン」の実施方針、安全管理及び広報活動方策の策定

○ 地域と学校の連携・協働体制構築の検討に関すること 等

2 令和3年度委員名簿

役職名	氏名	職名
会 長	遠藤 敏朗	愛媛大学大学院教育学研究科特定教授
副会長	西本由美子	愛媛県PTA連合会副会長
委 員	山田 誠	愛媛大学教育学部准教授
	川崎美代子	愛媛県連合婦人会副会長
	小澤 和樹	愛媛県小中学校長会副会長
	樋口 志保	愛媛県学童保育連絡協議会会長
	緒方 義彦	愛媛県市町教育委員会連合会会長
	岩本 透	愛媛県経済同友会総務企画委員長
	福本 政代	大洲市教育委員会地域コーディネーター
	水谷 一美	公募委員

3 会議の主な内容

回数・実施日	会場	主な協議内容
第1回 R3. 9. 28 (金)	県立図書館 (配信会場) オンライン開催	○事業の概要及び実施状況報告 ○愛媛県内の特色ある取組の事例
第2回 R4. 3. 10 (木)	ヤングボランティア センター(県美術館南館内) (配信会場) オンライン開催	○令和3年度事業実施状況報告 ○令和4年度事業実施予定説明

1 目的

「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」に係るスタッフ及び市町教育委員会・学校等の関係者に対し、事例研究や講演等を通して研修を実施し、事業の趣旨・内容について理解を深めるとともに、効果的な取組の在り方について研究を行い、各地域の実践に生かす。

2 内容

対象活動名 「研修会テーマ」	実施日 会 場	参加 人数	主な研修内容
放課後子ども教室・ えひめ未来塾指導 者研修会 「地域ではぐくむ 子どもたちの安心・ 安全な居場所づく り～コロナ禍にお ける放課後等の体 験・学び・つなが りづくり～」	R 3. 6. 28 (月) ～7. 9 (金) ※オンデマンド配信	202 名 総視聴回数 934 回	○事業説明 ○講演 「心を元気にするレクリエーション支援」 NPO法人愛媛県レクリエーション協会 理事・事務局長 松木 紀子 氏 ○実技講習・事例発表 【体験活動部会】 「愛顔でつながるレクリエーション講座」 NPO法人愛媛県レクリエーション協会 理事・事務局長 松木 紀子 氏 【学習支援部会】 事例発表・インタビューダイアログ 「高津放課後まなび塾」(新居浜市) 「にほんご未来塾」(西条市) 「うわじま土曜塾」(宇和島市)
地域学校協働活動 とコミュニティ・ス クールの一体的な 取組推進研修会 「地域と学校の協 働ではぐくむ子ど もたちと地域の未 来づくり」	R 3. 7. 30 (金) 愛媛県立図書館 (配信会場) ※オンライン開催 R 3. 8. 13 (金) ～9. 24 (金) ※オンデマンド配信	235 名 総視聴回数 486 回	○事業説明 ○事例発表 【事例発表①】秋田県大館市立城西小学校 秋田大学北秋田分校校長 (城西小学校前校長) 三浦 栄一 氏 【事例発表②】大洲市立平野小・中学校 地域コーディネーター 福本 政代 氏 平野小学校校長 堀井 良彦 氏 ○助言 愛媛大学大学院 遠藤 敏朗 氏
新・放課後子ども総 合プラン指導者研 修会	R 3. 12. 18 (土) にぎたつ会館	84 名	○行政説明 ○講演 「放課後は子どもたちの未来の心のふるさと」 食文化・料理研究家/作曲家 中村 和憲 氏 ○事例発表 NIKONIKOクラブ (久万高原町) 玉の子教室 (西条市)

<p>家庭教育支援研修会</p> <p>「社会の変化に対応した家庭教育支援について～すべての保護者が安心して子育てできる環境・体制づくりを目指して～」</p>	<p>R 4. 1. 25(火) 愛媛県立図書館 (配信会場) ※オンライン開催</p>	<p>50名</p>	<p>○講演 「相談しやすい地域づくり～行政・地域・民間の重なり合うネットワークの中で～」 NPO法人ピアサポートネットしぶや 理事長 相川 良子 氏</p> <p>○事例発表 「コロナ禍における子育て支援の取り組み～すべての子どもの学びと笑顔のために～」 丸亀市家庭教育支援チーム 認定NPO法人さぬきっずコムシアター 理事長 高橋 勝子 氏</p> <p>○意見交流</p>
---	--	------------	---

3 放課後子ども教室・えひめ未来塾指導者研修会

(1) テーマ

「地域ではぐくむ子どもたちの安心・安全な居場所づくり
～コロナ禍における放課後等の体験・学び・つながりづくり～」

(2) 参加者 202名（総視聴回数 934回）

放課後子ども教室及びえひめ未来塾関係者、学校・家庭・地域連携推進事業関係者（地域コーディネーター等）、市町教育委員会関係職員、子どもの体験活動や学習支援に携わる方 等

(3) 研修の概要

- 事前アンケートの実施（各活動状況、コロナ禍における活動の悩みや課題等）
- 動画視聴（6/28～7/9中に視聴する）
 - ・ 研修会の趣旨及び事業説明（15分）
 - ・ 講演（30分）
 - ・ 体験活動部会【レクリエーション講座】（30分）
 - ・ 学習支援部会【事例発表・インタビューダイアログ】（60分）
- 事後アンケートの実施（講師及び事例発表等への質問を含む）
- アンケート結果をホームページ等で確認する。（質問に対する回答を含む）

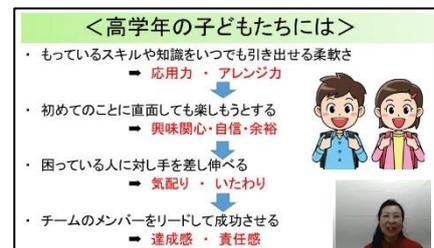
(4) 研修内容

①講演

演題：「心を元気にするレクリエーション支援」

講師：NPO法人愛媛県レクリエーション協会

理事・事務局長 松木 紀子 氏



講演では、NPO法人愛媛県レクリエーション協会の松木理事・事務局長に、レクリエーション支援方法や、コミュニケーションづくりについて、御自身の長年にわたった実践を踏まえながら御講演いただいた。子どもたちの心の状態を察する手立てとして「マズローの欲求5段階説」を用いながら、発達段階に応じたレクリエーション支援の具体例や子どもの心に寄り添った関わり方に

ついて分かりやすくお話いただき、指導者と子どもとのコミュニケーションの
図り方や子ども同士の良好な人間関係づくりについて大変参考になり、アンケ
ートでの肯定的な評価は100%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 子どもたちの発達段階を理解することで、必要な働き掛けが何かを知ることができた。子どもの「楽しい」を引き出すために、気持ちに寄り添いながら活動を進めたいと思った。
- 今の子どもの「いいところ」や「問題点」を踏まえ、マズローの欲求五段階説を通して、それぞれの子どもたちにあった関わり方を説明していただきよく理解できた。また、実践のレクリエーション講座では、具体的な活動について詳しく、また楽しく説明していただき分かりやすかった。
- 子どもにどのように接していけばよいか、子どもが前向きに活動するために、どのように指導の工夫をすればよいか、とても分かりやすい講演であった。子どもが生き生きと活動するために、大切なことだと思う。

② 実技講習・事例発表

【体験活動部会】(実技講習)

「愛顔でつながるレクリエーション講座」

NPO法人愛媛県レクリエーション協会

理事・事務局長 松木 紀子 氏



体験活動部会では、講演講師の松木氏によるコロナ禍でも活用できるレクリエーションの具体例やアレンジ方法について紹介していただいた。レクリエーションに参加する子どもの発達段階や環境に応じた目標設定及び道具の選び方、時間設定等の工夫とともに、子どもたちへの声掛けや指導者の心構えについて分かりやすい内容であった。参加者にとって多くのヒントをいただき、アンケートでの肯定的な評価は100%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 紙飛行機作りの発想はあったが、それを遠くに飛ばすだけでなく、的に向けて投げたり、リレー形式にしてみたり、子どもたちも楽しみながら連帯感を育むゲームとして、とても参考になった。
- 豆つまみ皿うつし、パックタワーなどみんなで楽しみながら、挑戦意欲やチーム力を高めたり、達成感を覚えたりと簡単なゲームからでも、色々な大事なことを学べるのだなと思った。今後、放課後子ども教室を開催する際には、ぜひいろいろチャレンジしてみたいと思う。
- コロナ禍でも体験できそうなゲームがたくさん紹介されており、早速取り込んでみようと思った。また、子どもとのコミュニケーションの取り方として、子どもの話を最後まで聞くことや、気持ちに寄り添う言葉掛けの必要性を教わった。

【学習支援部会】（事例発表・インタビューダイアログ）

「学びと心の居場所づくり～えひめ未来塾の取組から～」

事例発表：「高津放課後まなび塾」（新居浜市）

学習支援員・コーディネーター 三宅 梢恵 氏

地域コーディネーター 秋月 恭子 氏

「にほんご未来塾」（西条市）

学習支援員・地域コーディネーター 柳川 五郎 氏

「うわじま土曜塾」（宇和島市）

コーディネーター 平田 敦子 氏

インタビュアー：県教育委員会事務局社会教育課 社会教育主事 舟田 美加

放課後子ども教室及びえひめ未来塾で学習支援に取り組む3市の事例発表とともに、事例発表では詳しく聞けなかった内容や、参加者から事前質問に応えながら、学習支援と放課後の居場所づくりについてのインタビューダイアログを実施した。コロナ禍における支援体制の在り方や、感染症対策等について情報交換するとともに、地域ぐるみで行う子どもたちの学習支援について考える時間となった。アンケートでの肯定的な評価は97%であった。



参考になったこと・感想・意見

- それぞれの事例発表の中に、「子どものために」という思いがあり、心打たれた。一人ひとりの環境が違うことを意識した指導がされていて、学校だけに収まらない教育の力を改めて感じた。学校との情報交換、連携が今後ますます必要になると思った。
- 活動に伴い、どうしても感染症対策に不安が生じるが、今回の発表のような対策の事例を紹介いただくことで、安心したり、納得したりすることができたのではないかと。高津小のようにPTA役員からコーディネーターとして、またPTA事務員として活動支援をいただいていることは理想であると感じた。西条市の事例では、特徴のある地域課題を大人たちがそれをどう受け止めたのかが参考になった。子どもたちの地域課題は、それぞれあるはずなので、この連携推進事業に関連させることも手立てであると感じた。宇和島市の事例では、市内全体で土曜塾をされており、支援員自身の学習や特徴のある学習が参考になった。

(5) まとめ・来年度の研修会に向けて

今年度は、ZoomやYouTubeを有効に活用することで、コロナ禍での新しい研修会の持ち方を提案した。ICTの活用により、繰り返し視聴できるとともに、より多くの方々に視聴していただくことで、放課後子ども教室及びえひめ未来塾の取組の現状やコロナ禍における課題等を共有することができた。また、事前事後アンケートによる各市町の課題の把握や視聴後のQ&Aにより、オンデマンド配信という研

修スタイルでも双方向のやりとりを重視することで、講師及び事例発表者と参加者がともに放課後等の支援の在り方について考えることができるようにした。全体の満足度は肯定的意見が 98%で、参加者の関心とニーズに合った内容の研修会が開催できたものとする。

今後は、今回の成果と課題を踏まえ、各市町の活動の実態把握に努め、より効果のある研修会に繋げるとともに、放課後子ども教室及びえひめ未来塾の拡充を図っていきたい。

4 「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組推進研修会

(1) テーマ

地域と学校の協働ではぐくむ子どもたちと地域の未来づくり

～「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組から～

(2) 研修の概要

- 日 時 令和3年7月30日（金）13:30～15:40 オンライン開催
※令和3年8月13日（金）～9月24日（金）オンデマンド配信
- 主会場 愛媛県立図書館（配信会場）
- 参加者 235名（総視聴回数486回）
学校・家庭・地域連携推進事業関係者（地域コーディネーター等）、学校運営協議会委員、教職員、市町教育委員会職員、社会教育関係団体関係者（公民館、PTA等）等

(3) 研修内容

① 県外事例発表「大館市立城西小学校（秋田県）」

発表者：秋田大学北秋田分校校長（城西小学校前校長） 三浦 栄一 氏

県外事例発表は、大館市立城西小学校の三浦栄一氏に「地域・家庭・学校で共に創る豊かな未来～城西100年教育～」と題し、コミュニティ・スクールとして15年目を迎える同校の継続の秘訣を中心に発表していただいた。



城西小学校の現校舎は、平成15年に城西児童センターとの学社融合施設として完成したもので、校区には新興住宅地、繁華街、農村部、商業地区等があり、地域のまとまりをどのようにするかという課題があった。その解決の方途がコミュニティ・スクールという学校運営の在り方で、学校を地域の拠り所、学びの拠り所とする必要があった。そこで、平成19年4月に大館市から指定を受け、秋田県初のコミュニティ・スクールとなったのが始まりである。

発表者の三浦氏は、立ち上げ時の教頭として、「教職員が異動しても心とシステムが永く続いて子ども・地域が育つ核となる学校づくり」を目指し、保護者・地域住民の教育参画を可能とする学校組織・運営を行う方針の決定にも関わっている。活動の核となったのが地域委員会で、学校運営協議会委員、保護者、地域住民、学校職員等で構成され、自主的な事業の企画・運営、地域人材の活用や呼

び掛け等を行っており、合言葉を「できるときに できる人が できることを」としていると話してくださった。また、継続のポイントに活動の見直しがあり、現在は「コミュニティ・スクールが核となって地域の未来を創る」という理念のもと「大館『ふるさとキャリア教育』」に取り組んでいるとも紹介してくださった。

最後に、15年間コミュニティ・スクールに取り組んだ成果として、「子どもたちに育まれた自己有用感・大人への信頼感・社会的役割の自覚」、「学校・保護者・地域住民の絆の深まり」、「大人の地域づくりへの参画意識の高まり・生きがいの醸成」が挙げられると話してくださり、参加者にとって今後の取組の方向性を示してくださる内容となった。

参考になったこと・感想・意見

- 地域の人材育成というコンセプトを学校・地域等が共有することで持続可能に向かうという様子が分かった。今後、この共有をどのように進めていくことができるのか検討しながら進めていきたい。
- 「ふるさとキャリア教育」の考え方が参考になった。「コミュニティ・スクールが核となって地域の未来を創る」という考え方も、今後、コミュニティ・スクールを推進するための参考にしたい。
- 「できるときに できる人が できることを」を合言葉に多くの地域住民が様々な活動で学校（子ども）と関わり、学校・家庭・地域住民の絆が深まる取組が継続されているところにコミュニティ・スクールの意義を感じた。
- 「学校運営協議会」「地域委員会」がうまく機能して地域ぐるみで子どもたちを育てていき、目指せ100年教育と題して、地域の未来を創る活動を紹介していただき大変参考になった。

②県内事例発表「大洲市立平野小・中学校」

発表者：地域コーディネーター 福本 政代 氏
平野小学校 校長 堀井 良彦 氏

県内事例発表では、大洲市立平野小・中学校の地域コーディネーターの福本政代氏と平野小学校校長の堀井良彦氏に、「平野の地域づくり 学校づくりの推進」というテーマで、地域と学校双方の視点からコミュニティ・スクールの立ち上げと現状について発表していただいた。



平野小・中学校は、平成29年度から近距離にあるという地理的環境を生かした一貫教育を行っている。地域学校協働本部も設置されており、発表者である福本氏が地域コーディネーターを務めていることもあって、これまでの土壌を生かしたコミュニティ・スクールの導入を行った。

堀井氏からは、市教育委員会がリードし準備委員会を設置、地区自治会役員や小・中学校の保護者等を対象にしたアンケートや「平野地区で育てたい子ども像」

をテーマにした熟議を行ったこと、このアンケートや熟議を通して地域や子どもたちにある課題を話し合い、解決策も考えた上でコミュニティ・スクール導入へとつなげた、という話があった。また、福本氏からは、地域コーディネーターとして、「関係者への依頼・連絡・日程等の調整」、「新規活動のアイデア（人材や場所探し）」、「いころの里通信の発行」等の活動をしており、昨年度はコロナ禍だったが、できることを探して子どもたちとともにマスクやシトラスリボンづくりに取り組んだ、という話をしていただいた。

2年目となった令和3年度は、地域の方に気軽に足を運んでもらえるようにと「ボランティアルーム」を設置したことや、中学生が地域に出向き挨拶運動に取り組むという成果も出始めているという話があった。コミュニティ・スクールを導入することによるメリットにも触れていただいたことで、参加者には大変参考になる内容となった。

参考になったこと・感想・意見

- コミュニティ・スクールの立ち上げからの話もあり、まさにスタートを切って3年目の本校には、ありがたい情報がたくさんあった。ボランティア募集の失敗事例やボランティアルームの設置という同じような課題と取組もあり、勇気をいただいた。
- 地域との無理のない連携がスタートになり、コミュニティ・スクール以前からの地域関連行事をうまく取り入れた学校運営がとても素晴らしいと思った。
- 同じ地域コーディネーターとして、参考になる部分がいっぱいあった。普段から、地域の方とコミュニケーションをとることの大切さを痛感した。それぞれの地域で正解を見つけたらいいと、励みになる助言をいただいた。
- 1年目のコーディネーターとしては、貴重な発表を聞かせていただいた。やはりボランティア参加者が少なく苦慮しているが、粘り強く少しずつ活動を進めていきたい。コロナ禍に苦しみながらもできることを探りながら活動しており、「ちょボラ」の精神で取り組んでいることが大変参考になった。複数回の熟議を通して、子どもたちの長所や課題をしっかりと話し合い、理解を深めていくことの大切さを感じた。

③質疑応答

参加者： 秋田大学北秋田分校校長（城西小学校前校長） 三浦 栄一 氏
大洲市立平野小・中学校 地域コーディネーター 福本 政代 氏
大洲市立平野小学校 校長 堀井 良彦 氏

指導助言：愛媛大学大学院教育学研究科 特定教授 遠藤 敏朗 氏

事例発表者3名と愛媛大学大学院の遠藤特定教授に指導助言者として参加していただき、事例発表では詳しく聞けなかった内容や、参加者からの質問に応えながら、「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組について考える質疑応答



を実施した。

参加者からは、コミュニティ・スクールを導入することによる子どもたちの変容、教職員のモチベーション向上や負担軽減に向けた工夫、目指す学校像・子ども像・地域像についての熟議をどのようなタイミングで行ったのか等の質問が寄せられ、学校と地域の連携を持続可能なものにするために、その方向性について深く考える時間となった。

指導助言の遠藤特定教授からは、城西小学校が「地域と共にある学校づくりから、学校を拠点とした地域づくり」へと目標を変更しながらも方向性をしっかりもって活動していることや、平野小・中学校が「いころ」をテーマに掲げその地域でなければできないことに取り組んでいること等を学んだというお話をしていただくとともに、今後の地域と学校の連携・協働のポイントについて御教示いただいた。

参考になったこと・感想・意見

- こんな子どもたちに育ってほしいと願って取り組んでいることが、小学校から中学校、将来へとつながっていることが子どもの姿を通して見えているのが分かった。「見方が変わると味方が増える」の考え方は、自分にはなかった視点で勉強になった。
- 教員の負担軽減という視点が参考になった。開かれた学校づくりを行うことで、まずは学校、教職員の忙しさの実態を知っていただき、(将来的に)コーディネーターを中心に、学校の本来行うべきではない業務をサポートしていただけるようになるとういのではないかと思います。
- コミュニティ・スクール立ち上げの経緯が資料をもとによく分かった。地域コーディネーターの関わりがとても参考になった。
- 地域を離れどの地域に行っても、そこで活躍できるように、創造する力や粘り強さ、たくましさを育てることが大切だと感じた。また、子どもの頃に多くの人に自分が大切にされたという思いは、子どもを支えると思う。大変だができることから取り組みたいという思いを強くすることができた。

(4) まとめ・来年度の研修会に向けて

県教育委員会主催で地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを一体的に推進していく研修会を実施したのは今年度が2回目ということもあり、オンラインでの開催にもかかわらず、市町学校・家庭・地域連携推進事業担当者を始め、学校関係者、PTA等の社会教育団体関係者等の235名の方に参加いただいた。

本来は、参集で実施することを通して参加者のつながりづくりや情報交換の時間を設ける予定であったが、感染症対策としてオンラインでの開催とした。参加者へのアンケートでは、事例発表、質疑応答ともに肯定的意見が100%で、参加者の関心とニーズに合った内容の研修会が開催できたものと考えている。

愛媛県内のコミュニティ・スクールや地域学校協働本部は年々増加しており、「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組の推進が求

められている。今回の研修会の成果と課題を踏まえ、次年度はさらに参加者の学びと実践につながる研修会を目指して、今後も学校・家庭・地域連携推進事業の拡充を図っていきたい。

地域学校協働活動、コミュニティ・スクールについての意見、要望等

- 県内、県外と広域にわたる他校の取組を聞くことで、今後の学校教育には、家庭や地域との連携・協働が欠かせないことを改めて感じたので、今後も多くの実践発表を紹介したり、他校の様子を見せていただいたりする機会を設定していただけると助かる。
- まだまだ、既存の地域組織とこれからのコミュニティ・スクールの組織作りの再構築が十分にできていない地域状況であり、今後さらに学習してより良い方向での取組を構築していけたらと考えている。
- 本校はコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を設置しているが、地域コーディネーターが配置されておらず、地域学校協働活動が十分にはできていない。公民館主事と密に連携を図り、コロナ禍でもやれることを探して学び・交流・貢献の場をつくっていきたい。
- 地域コーディネーターの交流、勉強会の企画をお願いします。

5 新・放課後子ども総合プラン指導者研修会

(1) 研修会の概要

- 日 時 令和3年12月18日（土）12：30～16：50
- 場 所 にぎたつ会館（芙蓉の間）
- 参加者 84名

放課後子ども教室関係者（地域コーディネーター、協働活動推進員、協働活動サポーター等）、放課後児童クラブ職員（放課後児童支援員及び補助員等）、児童厚生員、行政担当者 等

(2) 研修内容

① 講演

演題：「放課後は子どもたちの
未来の心のふるさと」

講師：食文化・料理研究家/作曲家

中村 和憲 氏



講演では、「幸せの種まき」をライフワークとして食育や音楽活動などに幅広く御活躍されている食文化・料理研究家/作曲家の中村和憲氏を迎え、年齢による体験時期の大切さやコミュニケーションづくりについて、御自身の経験と長年にわたった実践を踏まえながら御講演いただいた。子どもたちを取り巻く環境が変化する中で、子どもたちの目線に立った言葉掛けが子どもの成長に大きく影響していることをはじめ、子どもとの関わり方や地域全体で子どもの放課後等の活動を支えることの大切さについて理解を深めることができ、アンケートでの肯定的な評価は99%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 具体的で、よく分かる内容のお話でよかった。子どもたちの目線で様子を見つめ、素直に言葉掛けしていくことや、プラスの言葉をこれからより多く掛けていきたいと思う。また、自分自身も素直に生きていきたい。
- 「子どもを信じて待つこと」…すぐに先回りして危ないことやしてはいけないことを言うてしまう大人になってはいけないなと思った。子どもは大人のことをよく見ており、子どもに関わる近い存在の大人として、たくさんのプラスの言葉を掛けて、子どもたち自身が考え、気付くのを待ちたいと思った。
- 昔と今との急激な成長により、子どもたちにも変化があることが分かった。人と人とのつながり、今生きていること、出会うことが奇跡、そのとおりだと思った。命が続くこと、命の大切さ、心の輝きなど大切なキーワードをたくさんいただいた。

②事例発表

事例発表：「NIKONIKOクラブ」（久万高原町）

放課後児童支援員

山内はづき 氏

放課後児童支援員

渡部 梨香 氏

「玉の子教室」（西条市）

玉津公民館 主任主事

一色 良 氏

地域コーディネーター

松本 裕子 氏

久万高原町の「NIKONIKOクラブ」は、町内唯一の児童館・児童クラブであり、放課後子ども教室「久万のこどもの居場所づくり教室」と連携型で運営している。他学校と異年齢交流を大切にしながら、学習支援をはじめ、自然豊かな環境を生かした体験活動（工作、料理教室、スポーツ活動等）を地域の様々な団体と連携しながら実施しており、放課後等に子どもたちが安全・安心で健やかに過ごすことのできる居場所づくりについて発表していただいた。



西条市の「玉の子教室」は、各プログラムの申込者数が190名を超える規模の大きな放課後子ども教室であり、放課後児童クラブ「玉津児童クラブ」と一体型で運営している。参加者のニーズに応じた多種多様な学習メニュー（プログラミング・パソコン等）の拡充をはじめ、実行委員会における安全管理マニュアルの作成や地域団体と連携について発表していただき、今後の教室活性化のポイントや課題を含め、子どもの安全・安心な活動拠点づくりについて発表していただいた。



それぞれの地域の実情に応じた一体型・連携型の取組を知る機会となり、アンケートでの肯定的な評価は100%であった。

参考になったこと・感想・意見

- 児童クラブの連携として、野菜作りやパソコン教室、軽スポーツ、工作教室など、様々な活動を子どもたちが体験でき、また、様々な人たちとの交流もあり、とてもすばらしいと思った。私たち児童クラブでも、地域の人との交流や活動をさらに増やしていきたいと思った。
- 環境もすばらしい。子どもが自然に触れ合いながらのびのびと活動されている。どちらも地域とのつながりを大切に、職員の方々が工夫されていてすばらしい。
- 私の職場は、館・クラブ・放課後子ども教室が一体となっているので、それぞれ別で活動している所とは違ったよさがあり、一体化の強みが見えてきた。これからも一体化の強みを活かしながら、地域を巻き込んだ次世代育成支援を心掛けて、子どもたちと楽しく過ごしていきたい。

③グループワーク（質疑応答含む）

グループワークでは、放課後子ども教室や放課後児童クラブ関係者、各市町担当者等の様々な立場で事業に関わる参加者が、事例発表を中心に意見交流を行った。

また、各グループから事例発表者への質問事項をあげてもらい、人材確保やトラブルの対処方法、学校との連携の回り方等について丁寧に答えていただきながら、放課後における子どもの支援体制整備や放課後児童クラブと放課後子ども教室との効果的な一体型の取組手法等について学びを深めることができた。

さらに、長期間のコロナ禍により他地域の事業関係者との交流が長期間できなかつたため、各教室やクラブでの活動の様子や工夫点、課題等の情報交換を行う時間を設けた。参加者にとって、コロナ禍で感じた様々な思いや悩みを打ち明け、共有することにより、今後の活動の励みになったという感想を多くいただき、短い時間ではあったが有意義な時間となった。アンケートでの肯定的な評価は 100%であった。



参考になったこと・感想・意見

- 久しぶりのグループワークで、初対面の方々との交流・情報交換ができ、とても充実した時間になった。もっと時間がほしいほどだった。やっぱり直接話し合えることでの学びは多い！
- それぞれ苦労している点、課題などを共有することができよかった。課題等に対して、アドバイスももらえて、本当に参考になった。
- 久しぶりに他の児童クラブの方や行政の方のご意見を聞き、明日からまたがんばれそう。

○各地域でそれぞれの課題が工夫された活動を知ることができてよかった。行政として何ができるか、考えさせられた。スタッフの大変さを知り、とても助けられて、事業ができていたのだと感謝している。グループワークができてよかった。

(3) まとめ・来年度の研修会に向けて

参加者が安心して参加できるよう、万全な感染症対策を図りながら実施し、今年度に参集できた唯一の研修会となった。研修を通して、子どもとの関わり方の原点に戻るとともに、放課後における子どもの支援体制整備や一体型の効果的な取組について理解を深めることができ、全体の肯定的な評価は99%であった。

令和3年度に県内において一体型で実施した放課後子ども教室は、全体の約4割（松山市を含む）である。今後は、今回の研修での成果と課題を踏まえ、地域の実情に応じながら、地域の子どもの健やかに育む体制づくりの一環として、両事業の計画的な整備を進めていきたい。

4 家庭教育支援研修会

(1) テーマ

社会の変化に対応した家庭教育支援について

～すべての保護者が安心して子育てできる環境・体制づくりを目指して～

(2) 研修の概要

○ 日 時 令和4年1月25日（火）13:00～16:30

○ 場 所：愛媛県立図書館（オンライン開催）

○ 参加者（50名）

家庭教育支援チーム関係者、学校・家庭・地域連携事業関係者、市町教育委員会職員、教職員、社会教育関係団体関係者等

(3) 研修内容

①講演（肯定的な意見100%）

NPO法人ピアサポートネットしぶや 理事長 相川 良子（あいかわ よしこ）氏をお迎えし、講演題を「相談しやすい地域づくり～行政・地域・民間の重なり合うネットワークの中で～」として、行政・地域・民間が力を出し合う総合的な取組の必要性等、地域共生社会の在り方についての講演を行った。

講演では、地域とのつながり、育ての孤立化等、家庭教育が困難な状況にある現代社会においては、「つながりが創る豊かな家庭教育」が必要であり、社会全体で家庭教育を応援することの大切さを説明していただいた。また、課題解決の提案として、「居場所」をテーマに構築したピアサポートネットしぶやの実践事例を中心に、課題解決には、主体性、柔軟性、多様性による「役割でつながるネットワーク」が求められていることを教えていただいた。

②事例発表（肯定的な意見100%）

丸亀市家庭教育支援チームである認定NPO法人さぬきっずコムシアター 理事長 高橋 勝子（たかはし かつこ）氏をお迎えし、講演題を「コロナ禍における子育て支援の取り組み～すべての子どもの学びと笑顔のために～」として、さぬきっず学び舎プロジェクトを中心に、学習支援や創造体験活動、保護者向け

の相談活動やフードパントリー活動についての事例発表を行った。

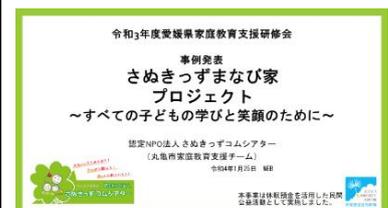
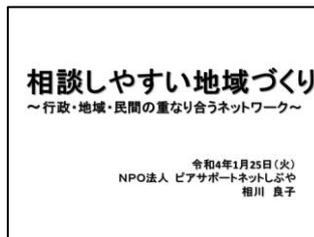
事例発表では、コロナ禍により、生活状況が厳しい子育て家庭においては、子どもの教育の機会がより減少していることを背景に、すべての子どもに平等な学びと体験の機会が必要と考えて取組んだ様々な活動について、詳しく紹介していただいた。また、家庭教育支援は、社会全体が子ども・子育てを見守り応援することが大切であり、その体制づくりが重要であることを御提言いただいた。

③意見交流（肯定的な意見 91%）

意見交流については、6つの小グループに分かれて話し合い、その後全体の場で各グループ代表者が話し合った内容を発表し、最後に講師2名の方から助言をいただいた。

(4) 家庭教育支援関係者の感想

- 共進という「一緒に進もう」という地域に寄り添うことの大切さを相川先生の言葉の端々から学んだ。「子育ての当事者」としてそして「自分事として」という事をどう意識していくかということが家庭教育においてもキーワードだと思う。
- 地域の中で「子どもを育む環境づくり」という思いにすごく共感した。ひとりぼっちになりがちなところが子育てにはあるので、まなび家が関わっている人にとって、自分へのまなびにつながっていくのだなと思った。
- 「貧困は経済だけでなく人や地域のつながりの中にもあります」という講師の言葉が印象深かった。お二人の話には地域と民間と行政の協働という共通点があったと思うが、いずれのつながりにも待っている姿勢が強く行動力のある人の出現を待ち貧困につながっているのではと感じた。
- 最も心に残った言葉は「会議ではなく“必要”でつながっている」。そして「地域の中でチームが行う」、「若者のいないチームは長続きしない」、「コーディネートは民間」、「共感を生むと地域の中で大きくなる」などの心を揺さぶる言葉が押し寄せてくる講演だった。



(5) 来年度の開催に向けて

今年度は、参集型で計画していたが、コロナ禍の影響により急遽オンライン開催に変更した。参加者はオンライン開催に戸惑いながらも、家庭教育支援の課題に沿った講演や先進的な事例を通して、今後の活動への意欲を高めていた。ただ、オンライン開催では、参加者同士のつながりや、ワークショップといった活動には限界があるため、研修内容を深める手法については課題が残った。今後、アンケート結果等を踏まえて改善策を考え、より効果のある研修会の実施につなげたい。

1 普及啓発事業①「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」（兼合同研修会）

(1) 目的

県内の幼稚園から高等学校までの保護者・教師・地域住民・福祉関係者・警察関係者・企業等の子どもたちに関わる大人が一堂に会して、研修や情報交換を行い、社会総がかりで子どもたちを育むための方向性を探る。

(2) 開催結果

- オンデマンド配信
 ※新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催方法を変更して実施
- 令和3年10月1日(水)～31日(日)の期間、各分科会の事例発表をYouTube(限定公開)で配信
- 総視聴回数 1,049回

【開催方法について】

オンデマンド配信については、肯定的な意見は91%であり、高い評価を得た。時間や場所の制限なく自由に参加することができたため、新しい「集い」の形も一定程度受け入れられたが、参加者同士のつながりを深める等、参集型の良さを求める意見もあった。

参加者の感想（オンデマンド配信）

- すべての分科会の様子を拝聴することができた。会場に足を運ばなくても十分学べると思う。
- 家で子どもがいる状況でも、ゆっくり視聴することができ、聞き逃しても何度も見直すことができる等、研修を深めることができた。
- オンデマンド開催では自分の都合の良い時に視聴できるという利点を感じが、個人的には会場でリアルタイムに質疑応答や意見交換をできる方が良いと思う。
- このような分科会のある大会では、同じ関心をもっている人と様々な情報を交換しながら参加できるのが一番のメリットだと考えるのでオンデマンドでの開催は残念であった。

【分科会(配信内容)について】

分科会についても、肯定的意見は97%であり、大変高い評価を得た。(昨年度は94%)

今年度は「ICT時代の教育支援」を新たに加えた、5つの個別テーマによる分科会での事例発表を行った。各分科会2つの事例発表後、司会者、助言者、発表者による質疑応答及び指導助言を収録し、分科会毎に社会教育課ホームページから視聴できるようにした。



分科会	テ ー マ
第1分科会	<p>【地域学校協働活動】 幅広い地域住民の参画により、学校と地域が連携して子どもたちを育てる体制づくりをどのように進めるか 〈発表1〉 光り輝け 城南プライド ～地域住民とともに～ 城南中学校区地域学校協働本部 宇和島市立城南中学校 教頭 中井 孝一 〈発表2〉 「川之江先輩塾」 ～先輩（地域）から後輩へつなぐ“学び”の襷(たすき) 川之江先輩塾 江南ラミネート株式会社 代表取締役 石川 克晴 愛媛県立川之江高等学校 教 頭 桑原 光章 代表生徒 2名</p>
第2分科会	<p>【地域による教育機会の充実】 全ての子どもたちへの教育機会の充実を図るために地域の支援体制づくりをどのように進めるか 〈発表1〉 上島町でみえた過疎地域の教育の課題 うらしま学舎 塾長 中裏 修平 (元上島町公営塾ゆめしま未来塾 塾長) 〈発表2〉 学び舎事業 ～地域の力で学力向上をめざして～ 西予市学び舎事業 指導者 兵頭 豊司</p>
第3分科会	<p>【子育て・家庭教育支援】 保護者と子どもを支え育む子育て・家庭教育支援の体制づくりをどのように進めるか 〈発表1〉 子育てを楽しめる身近な活動を あいなん子育て応援グループ チーム員 中尾 房子 〈発表2〉 コロナ禍での子育て相談 ～SNSを活用して～ NPO法人子育てネットワークえひめ 代表理事 山本由美子</p>
第4分科会	<p>【放課後・休日の子どもの支援】 子どもたちの放課後等の豊かな教育活動をどのように進めるか 〈発表1〉 放課後子ども教室 ～豊かな教育活動を目指して～ 東温市教育委員会生涯学習課 主任主事 田村 祐治 〈発表2〉 里山の生活体験教室 西条市大保木公民館 館長 近藤 俊雄 主事 岩間 好美</p>
第5分科会	<p>【ICT時代の教育支援】 子どもたちのICT環境が大きく変化する中で、地域の教育支援をどのように進めるか 〈発表1〉 地域と学びをつなげるICT教育 うちこ未来塾 指導者 武田 惇奨 内子町教育委員会学校教育課 課長補佐 谷水 健二 〈発表2〉 ネットトラブルから子どもたちを守るための取り組み 松山市小中学校PTA連合会 会長 河崎 元</p>

参加者の感想（分科会）

- 愛媛県全体で地域と学校が密に連携し、子どもの成長につながる取組がたくさんなされていることを知った。課題は地域ごとによって様々だと思うが、今後も地域に密着し、そこでしか得られなかった学習を通して、相互の課題解決に向けた取組を継続していただければなと思った。
- 各世代でいろいろなことをチャレンジしながら、少子化や過疎化に取り組んでいると思った。子どもの授業でプログラミング、タブレットが身近になってきたので、大人（親）である私たちもきちんと学び、サポートしていける環境を整える必要があると思った。
- 各分科会の気になる取組を視聴した。共通していることは、地元のことをよく知ること、自己肯定感を高めること、地域で活躍できる人材を育てることと思った。本校は、児童数が減り、課題を多く抱えている。今回の報告を参考に、子どもファーストで楽しい学校をつくっていきたい。

参加者からの提言

- PTA活動も縮小され、保護者同士の横のつながりも希薄になっている。各々が今回の大会のような活動に参加することで、少しでも子どもたちのために、社会とつながれるのではないかと思う。
- 「社会が子どもを育てる」いろいろな勉強だけでなく、実際の社会に触れることは、人生において大事なことだと思う。勉強は、受験ではなく、実生活のためのものであって欲しいし、実生活に役立ち、地域に役立てることが大切だと思う。
- 誰しも人の役に立ちたいという気持ちが少なからずあると思う。学校や教育委員会、市や県、国の働きかけがあれば、手を上げる人も多いと考える。保護者は、多種多様なスキルをもっているのだから、ぜひ使っていただきたい。
- コロナ禍で人と人とが接する機会が制限され、これまで以上に人とのつながりが難しくなる今の現状だからこそ、オンデマンド等の方法を活用しながら、多くの人に本会の理念や取組を広げていくことは重要であると感じた。
- 学校だけ、教員だけで何でも進めていく時代は終わったと思う。これからは、家庭や地域の力を借りながら、ともに子どもたちのために何ができるかを考えて実行していかななくてはならない。

(3) 来年度の開催に向けて

今年度のアンケートや反省をもとに、参加者のニーズ、現代的課題と社会の要請等を検討し、来年度の講演講師や分科会のテーマを設定したい。また、愛媛の子どもたちの健やかな育ちのために、学校・家庭・地域の連携・協働について、社会総がかりで考え、学び、深めていく「集い」にしたい。

2 普及啓発事業②事例集

事例集の作成・配布

(1) 内容

県事業及び「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」の取組について、実施市町の優れた実践事例を冊子に取りまとめ、関係者等に提供する。

(2) 配布方法

データの提供及びホームページでの公開

5	教育サポート企業活用促進事業
---	----------------

1 目的

教育支援を実施する企業・NPO等の活用を促進し、地域学校協働活動を活性化させるとともに、学校と企業・NPO等の連携促進による教職員の負担軽減を図る。

2 内容

対象活動名 研修会テーマ	実施日 実施方法	参加 人数	主な研修内容
教育サポート企業 フェスタ オンラインでつながる社会総がかりの教育活動の充実に向けて ～えひめ学校・地域教育サポーターの活用を通して～	R4.2.17(木) ヤングボランティアセンター (配信会場) ※オンライン開催	73名	○開会行事 ○事業説明 ○事例紹介 ○土曜学習応援団による模擬授業 ○えひめ学校・地域教育サポーターによる模擬授業(7社の企業・団体) ○質問タイム ○閉会行事

3 研修の実際

(1) テーマ

オンラインでつながる社会総がかりの教育活動の充実に向けて
 ～えひめ学校・地域教育サポーターの活用を通して～

※ えひめ学校・地域教育サポーター
 出前授業や会社見学、資料提供等を通して、学校及び地域における教育活動に対して支援を行う企業・団体等。教育委員会HPにデータベース化し、R4.2.1現在 209社が登録。

(2) 研修の概要

- 日 時 令和4年2月17日(木) 13:30～16:00
- 開催方法 オンライン開催 (Zoomを利用)
- 参加者 (73名)

土曜教育活動関係者、放課後子ども教室関係者、学校・家庭・地域連携推進事業関係者、市町教育委員会職員、企業・団体関係者(えひめ学校・地域教育サポーター)、教職員、社会教育関係団体関係者(公民館、PTA、婦人会、愛護班等) 等

(3) 研修内容

①事例紹介と土曜学習応援団の模擬授業

令和元年度、令和2年度に報告のあがってきている事例の中から、公民館活動における職業体験の事業、学校行事の遠足とPTA親子活動を結び付けた事例、中学校における接遇教室や保健の授業等



の事例を紹介した。また、土曜学習応援団の事例についても紹介した。

また、先進事例として文部科学省の土曜学習応援団の「キャサリンとナンシーの金融教育」の模擬授業を実施した。オンラインでの授業のポイントや効果的な資料についてもお話していただき、サポーターにとって、授業をする側の参考となった。模擬授業の満足度は、肯定的意見が100%と好評価を得た。

②サポーター模擬授業

209社のえひめ学校・地域教育サポーターに案内したところ、下表のとおり26の企業・団体の参加（内、7社が模擬出前授業を実施）があった。オンラインを活用して、授業を行おうというサポーター側の関心の高さをうかがうことができた。



内容は、4つのブレイクアウトルームにて、えひめ学校・地域教育サポーターによる、30分程度の模擬授業や授業についての説明、参加者との質疑応答を行った。参加者は、前半、後半の2つの授業に参加できるようにした。

参加者にとって、サポーターの授業をイメージすることができ、活用の方法について参考にすることができた。サポーターにとっても、授業の方法等良い刺激となり、今後の授業の参考にすることができた。また、今回の研修により、コロナ禍の中で、オンラインでの可能性を感じることもできた。アンケートの肯定的意見は100%と好評価を得た。

参考になったこと・感想・意見

- オンライン形式での模擬授業を受講者として見てみると気付くことも多く、今後のオンライン授業の参考になった。
- それぞれ別の業界の模擬授業に参加させていただき、オンラインでの説明の仕方など今後取り入れていきたい内容が多くあった。中でも、対面、非対面に関わらず、基本的なところでもある「親しみやすさ」という点で大変参考になった。
- 体験授業では実験があったり、仕事の魅力を伝えられたりして、オンラインではあったがいろんな興味がわいてきた。こういう機会を設けてくださりありがたかった。
- 地域の子どもたちに色々な体験学習をさせてあげたいと考えている中で、各企業さんのこういったサポートがあるのは大変ありがたく素晴らしいことだと思う。連携を図りながら、よりよい体験活動につなげていきたいと思った。



(4) オンライン活用の充実と来年度に向けて

全体の満足度は、肯定的意見が100%で、参加者のニーズに合った内容の研修会が開催できたものと思う。

今後、ウィズコロナの中、えひめ学校・地域教育サポーターを有効に活用していけるように、改めてオンラインで授業の提供が可能なサポーターを整理し、情報の提供を充実させていきたい。

今年度は、コロナ禍の中、参集が難しいことから、オンラインでのフェスタを行った。昨年度は中予で開催しており、令和4年度は南予、令和5年度は東予での開催を予定している。

今後も教育関係者と企業等関係者が連携して、社会総がかりで取り組む教育活動の充実を図りたい。

令和3年度教育サポート企業フェスタ協力団体一覧表

サポーター名（授業実施）	
愛媛県消費生活センター	石田クリーニング 株式会社
NPO法人 NEXT CONEXION	石崎汽船株式会社 松山・小倉フェリー株式会社
愛媛トヨタ自動車株式会社	まつやまNPOサポートセンター
華彩フラワーカレッジ・ ロイヤルフローリスト華彩	
サポーター名（授業未実施）	
株式会社 伊予銀行	リージョナルデザイン株式会社
愛媛県総合科学博物館	JRホテルクレメント宇和島
愛媛県中予地方局総務企画部総務県民課	愛媛県金融広報委員会
株式会社愛媛CATV	株式会社 ユタカ
四国通建株式会社	日本証券業協会
四国電力株式会社 愛媛支店	株式会社 渡辺建設
ダイキ株式会社 ゆめ・みらい住まいの創造かん	株式会社 松山機型工業
日本赤十字社愛媛県支部	佐川印刷株式会社
松山税務署	トヨタL&F西四国株式会社